

**II 英語科の問題と
結果・分析**

II 問題と結果・分析

1 出題のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	評価			
			関意態	表現	理解	言・文
1 リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語での問い合わせに応答する			○	
	(2)	英語での問い合わせに応答する			○	
	(3)	英語での問い合わせに応答する			○	
2 リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(2)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(3)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(4)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
3 リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
	(2)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
	(3)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
4 対話文の読解 (読解の能力)	(1)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(2)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(3)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(4)	英語を読んで詳細を理解する			○	
5 手紙文の読解 (読解の能力)	(1)	英語を読んで概要・要点を理解する			○	
	(2)	英語を読んで概要・要点を理解する			○	
6 対話に合う文の選択 (対話の流れや場面の理解)	(1)	英語を読んで対話の流れを理解する			○	○
	(2)	英語を読んで対話の流れを理解する			○	○
7 対話に合う慣用表現の選択 (慣用表現等の知識)	(1)	場面に応じた英語の使用法を理解している			○	○
	(2)	場面に応じた英語の使用法を理解している ※問題に訂正あり。調査対象より除外した。			○	○
8 第3者を紹介する 文章の作文(表現の能力)	(1)	書く内容を考えて英語で書く	○	○		
9 絵の内容に合う文 の作文(表現の能力)	(1)	指定された内容を英語で書く	○			
10 語句の整序問題 (文法・語順についての理解)	(1)	与えられた英語で語順正しく書く	○		○	
	(2)	与えられた英語で語順正しく書く	○		○	
	(3)	与えられた英語で語順正しく書く	○		○	

2 正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答	主な誤答例
①リスニング (聞き取りの能力)	(1)	エ	アイ
	(2)	ウ	ア
	(3)	ウ	イ エ
②リスニング (聞き取りの能力)	(1)	イ	エ
	(2)	ア	イ
	(3)	エ	
	(4)	ウ	ア イ
③リスニング (聞き取りの能力)	(1)	エ	
	(2)	イ	
	(3)	ウ	
④対話文の読解 (読解の能力)	(1)	ア	
	(2)	イ	ウ エ
	(3)	エ	
	(4)	イ	
⑤手紙文の読解 (読解の能力)	(1)	ウ	アイ
	(2)	エ	ア ウ
⑥対話に合う文の選択(対話の流れや場面の理解)	(1)	ア	イ エ
	(2)	エ	イ ウ
⑦対話に合う慣用表現の選択(慣用表現等の知識)	(1)	イ	
	(2)	ア	※問題に訂正あり。調査対象より除外した。
⑧第3者を紹介する文章の作文 (表現の能力)		正答例 This is my friend. His(Her) name is Satoshi. He likes soccer. He can play soccer well. He is in the soccer club. 等	無答 14 % 冠詞の有無 3 単元のミス be 動詞と一般動詞の混在 be 動詞の欠落 単数、複数のミス 代名詞の格のミス Her is cute. His likes English. スペリングミス
⑨絵の内容に合う文の作文(表現の能力)		正答例 Lucy(She) is watching TV. Lucy(She) is sitting on the sofa. 等	無答 8 % スペリングミス be 動詞の欠落 ing の欠落 現在形の使用 She watches TV.
⑩語句の整序問題(文法・語順についての理解)	(1)	It's under the desk..	無答 4 % It's the desk under.
	(2)	What time do you get up?	無答 4 % What do you (time) get up (time)? do you get up what time?
	(3)	She has a house near Saitama.	無答 6 % She has a near house Saitama. She has near a house Saitama. She has near house a Saitama. She has a house Saitama near.

3 問題と結果の考察

(単位: %)

大問・領域	小問	問題	正答	国の正答率	市の正答率	県の正答率
① リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語の話しかけに対する応答を選ぶ That's a nice cap. Whose cap is it? ア It's a cap. イ They are caps. ウ They are on the desk. エ It's mine.	エ	52 *	72 (80)	
	(2)	Excuse me? Are you from Canada? ア Yes, you are from Canada. イ No, you are not from Canada. ウ Yes, I am from Canada. エ No, I am not from Japan.	ウ	38 *	80 (70)	
	(3)	I'm going to have a party tomorrow. Can you come? ア No, I don't. イ Yes, I am. ウ Sorry, I'm busy. エ You're welcome.	ウ	63 *	72 (63)	
② リスニング (聞き取りの能力)	(1)	絵の内容に合う文を選ぶ ア Where is my bag? Oh, it's under the chair. イ " It's on the chair. ウ " It's by the chair. エ " It's in the chair.	イ	65 *	44 (80)	
	(2)	ア Let's go home. It's six thirty. イ " It's six thirteen. ウ " It's five thirteen. エ " It's seven thirty.	ア	71 *	70 (72)	
	(3)	ア Mike likes Japan very much. He studies Japanese every day. イ " He practices judo every day. ウ " He talks with me every day. エ " He sings Japanese songs every day.	エ	95 *	96 (96)	
	(4)	ア Bob likes hamburgers. He's making a hamburger now. イ " He's buying a hamburger now. ウ " He's eating a hamburger now. エ " He's giving a hamburger to his friend now.	ウ	76 *	74 (94)	
③ リスニング (聞き取りの能力)	(1)	どのような場面での会話ですか。 A: Does Yoko come to school by bike? B: No, she walks to school every morning. ア 自転車を買う イ 道案内をする ウ サイクリングに誘う エ 通学方法を聞く	エ	99 *	90 (92)	
	(2)	どのような場面での会話ですか。 A: Two hamburgers and two orange juices, please. B: Large or small? A: Small, please. B: For here or to go? A: For here. ア 道案内での会話 イ 店での会話 ウ 銀行での会話 エ 台所での会話	イ	83 *	98 (98)	

(1) 結果の概要

リスニング問題①②③全体の正答率は79%で、②(1)を除き概ね70~90%の正答率を得ており、英語を聞いて概要や詳細を聞き取る力は付いていると思われる。

②(1)の前置詞、①(1)の疑問詞、②(2)の数字を聞き取る問題など、特定の単語を正確に聞き取らなくてはいけない問題では、正答率が他に比べて低い傾向がある。

③は正答率が95%と大変高い結果となった。英語を聞いて、概要や要点をつかむ力は多くの生徒が身に付けているものと思われる。

②(1)の問題の正答率が44%と極端に低く、onとinの聞き間違いの誤答例が多く見られた。文の構造も、用法も理解しているが、ネイティブの録音が、普段授業で行っている英語より速くて、前置詞onとinの違いを聞き取れなかつた可能性が高い。また、It's on ~. It's in ~.という表現における英語のリズムや音のつながりに慣れていなことがさらに聞き取りを難しくしたことや、前置詞が表す場所の感覚を十分つかめていないこと等が考えられる。

比較的正答率が低かった他の問題については、次のような分析が考えられる。

①(1)については、疑問詞を正確に聞き取り、さらにYes, No以外で答えなければならない問題であり、応答の正確さに欠ける生徒が多いことが推測される。

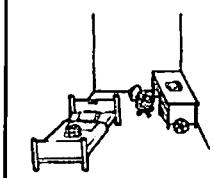
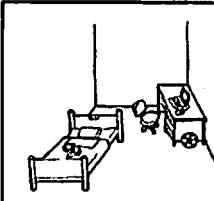
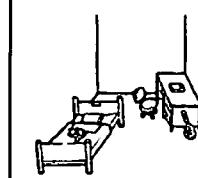
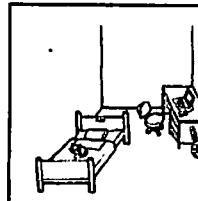
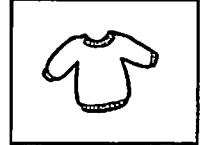
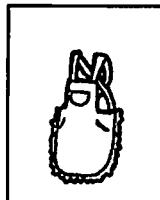
①(3)については、Can you ~?に対する様々な答え方が身に付いていないことが推測できる。

②(2)については、thirtyとthirteenの音の違いを正確に聞き取れなかつた。

(2) 指導のポイント

①英文を多く聞かせたり発音させたりして、英語の音に慣れさせ、多少スピードが速くても聞き取る経験を多く積ませる。英語特有の、日本人にとって聞き取りにくい音についての指導に留意することはもちろん、単独の語としてだけでなく、英語のリズムに乗った音のつながりの中で理解できる力を付けさせる指導が必要である。

③具体的な場面の中で、会話表現や受け答え、慣用表現等について理解させ身に付けさせていく。その際には、正確な応答等の文法知識について整理し、定着させていくとともに、答え方は一通りとは限らないことについても教えていくことが必要である。

	(3)	何についての会話ですか。 A: What subject do you like? B: I like English. How about you? A: I like Japanese. Japanese is interesting. But not easy. B: Oh, I see. ア 友人についての会話 イ 部活についての会話 ウ 教科についての会話 エ 先生についての会話	ウ	91 *	97 (72)																							
4 対話文の 読解 (読解の 能力)	(1)	会話の内容から明日の時間割を選ぶ ア <table border="1"><tr><td>国語</td><td>イ</td><tr><td>理科</td><td>国語</td></tr><tr><td>体育</td><td>理科</td></tr><tr><td>音楽</td><td>社会</td></tr><tr><td></td><td>体育</td></tr><tr><td></td><td>音楽</td></tr></tr></table> ウ <table border="1"><tr><td>国語</td><td>エ</td><tr><td>社会</td><td>国語</td></tr><tr><td>体育</td><td>理科</td></tr><tr><td>音楽</td><td>社会</td></tr><tr><td></td><td>英語</td></tr></tr></table>	国語	イ	理科	国語	体育	理科	音楽	社会		体育		音楽	国語	エ	社会	国語	体育	理科	音楽	社会		英語	ア	46 *	83 (68)	
国語	イ	理科	国語	体育	理科	音楽	社会		体育		音楽																	
理科	国語																											
体育	理科																											
音楽	社会																											
	体育																											
	音楽																											
国語	エ	社会	国語	体育	理科	音楽	社会		英語																			
社会	国語																											
体育	理科																											
音楽	社会																											
	英語																											
	(2)	会話の内容から写真を選ぶ ア  ウ 	イ	 	イ	86 *(80)	58																					
	(3)	会話の内容から次郎の部屋を選ぶ ア  ウ 	イ	 	エ	61 *(88)	92																					
	(4)	会話の内容からプレゼントを選ぶ ア  ウ 	イ	 	イ	75 *(82)	92																					

(1) 結果の概要

読解問題④全体の正答率は81%であった。一方読解問題⑤全体の正答率は69%であり、正答率に大きな開きが見られた。④(2)を除くと、総じて④の図表や絵を頼りに英文を読み取る問題の正答率が、⑤の文字媒体のみの問題の正答率を上回っている。

読解問題④は会話の流れに沿って英文を読みながら、条件を絞っていく問題である。読解問題④全体の正答率はおおむねよく、絵を頼りに段階的に情報を読みとる力は身に付いている生徒が多いと言える。

一方、読解問題⑤のように、文章全体の内容を正確に読み取る読解力には課題があると言える。

読解問題④(2)の正答率は58%と読解問題④の中でも低い正答率となった。条件を絞り込むという同じ種類の問題でありながら、④(2)の正答率が低かった原因としては、次のような要因が考えられる。

- ・風景の絵が一見してつかみにくく、1つ1つの絵の違いを把握するために、注意深く絵を見て、確実に英文の内容を把握し、情報と絵を照らし合わせなければならならなかつた。
- ・最後の"We didn't see many people."の文で読みとらなければならない条件をしっかりと読み取れなかつた。

⑤の問題では、(1)に「ア」という誤答が多い。英文(手紙)の内容の全体像をとらえるのではなく、特定の段落の文を見て、解答を選んだ可能性が高い。また、(2)では、文を細かく読まず、アの札幌と函館を勘違いしたり、ウの「サッカーが強い」だけを見て、解答を選んでしまったのではないか。

正答率が低い④(2)と⑤(1)の双方に共通していることは、読みとる英文が比較的長いこと、英語が苦手な生徒にとっては難しく思える単語が多いことが挙げられる。また、全体的に見て、絵がなく文字媒体のみの⑤の文章問題の正答率が低いとも言える。じっくりと文脈を読みとり、答えを出す前に、あきらめてしまうこともあると思われる。根気強く読み解く力が必要になってくる。

(2) 指導のポイント

- ①英文の多読速読指導の工夫が今後の課題と思われる。英文を読み、概要や大意をつかむ練習を計画的に行っていくことが必要である。また、定期テスト等にも、教科書以外の英文の概要を読み取る問題を入れていくなど、概要を読み取る経験を多くさせたい。
- ②文の概要を把握する力はあっても、キーポイントにおいて細かい部分まで理解できないと、大事なことが伝わらなかつたり、間違つて伝わつたりする。そのため、文の語法をきちんと教えたり、語彙を増やしたりし、文章を注意深く精読する訓練もしていく必要がある。宿題や家庭学習の活用を視野に入れて指導に当たることも必要である。
- ③情報の細かな要素を見極められる注意力の養成も必要と思われる。これは英語のみならずあらゆる教科や普段の生活における指導に負うところも大きい。

5 手紙文の読み解き(読み解きの能力)	(1)	英文の話題の中心は何か ア 新しい英語の先生の紹介 ウ 久美の最近の様子の報告 イ サッカーチームの紹介 エ グリーン先生へのお礼	ウ	76 *	66 (82)	
	(2)	本文の内容と合うものを選ぶ ア 久美は昨日札幌へ行った。 イ 久美は函館が気に入らなかった。 ウ 久美の新しい学校は小さいが、サッカーチームは強い。 エ 久美は英語を熱心に勉強している。	エ	61 *	72 (71)	
6 対話に合う文の選択(対話の流れや場面の理解)	(1)	対話文中にあてはまる文を選ぶ ア Please use this umbrella. イ Let's study together. ウ Oh, it's sunny. エ I'm sorry, I don't have an umbrella.	ア	74 *	79 (89)	
	(2)	対話文中にあてはまる文を選ぶ ア Oh, my change. イ Yes, it goes to Omiya. ウ Here, it is. エ No, take that train.	エ	59 *	50 (57)	
7 対話に合う慣用表現の選択(慣用表現等の知識)	(1)	対話文中にあてはまる慣用表現等を選ぶ ア Yes, please. イ OK. ウ You're welcome. エ Here you are.	イ	85 *	85 (93)	
	(2)	対話文中にあてはまる慣用表現等を選ぶ ア That's all right. イ Nice to meet you. ウ Oh, I see. エ See you. ※問題の対話文に訂正あり。 調査対象より除外した。	ア	64 *		
8 第3者を紹介する文章の作文(表現の能力)		友達を英語で紹介する This is my friend. His (Her) name is _____. に続けて4文以上書く (His (Her) name is _____. を第1文として、4文以上書く。)	正答例 This is my friend. His (Her) name is <u>Satoshi</u> . He likes soccer. He can play soccer well. He is in the soccer club. 等	35 *	50 (37)	

6 対話の流れや場面の理解

7 慣用表現等の知識

(1) 結果の概要

6は対話文を読んで、対話の流れや場面を理解し対話に当たる文を選ぶ問題である。7は場面を理解し場に応じた慣用表現を選ぶ問題である。

6(1)の正答率は79%、7(1)の正答率は85%で理解度は高かった。正答率の高かった6(1)と7(1)は、中学生にとって身近な話題や状況であり、場面の理解もしやすかったと思われる。

それに比べ6(2)の正答率は50%と低かった。6(2)は駅のホームでの、電車への乗車についての会話という、中学生にとってあまり体験のない場面であり、対話の流れから状況を十分に理解できなかったと考えられる。場面状況が多少複雑になったとしても文脈を正確に読み取り、場面を理解できるというまでの読解力については、十分とは言えない。

(2) 指導のポイント

パターン化された会話のやり取りの知識に加えて、会話の流れをつかみ、応答する力が求められる。

- ①ペアワーク、グループワークなどを利用し飽きさせないように、何度も繰り返し慣用表現や基本的な会話表現を体験させインプットし定着させる。基本的な受け答えをしっかりと定着させる必要がある。このような表現は何度も触れさせる機会を設定し、スパイラルに教えることが効果的である。
- ②具体的な「言語の働き」「言語の使用場面」を踏まえた「スキット」を生徒主体で継続実施する。パターン化された応答や慣用表現の練習・定着と同時に、その先に続く自由会話表現を意識して取り入れる必要がある。その場その場において、自分で考えられる力を付けさせることが大切である。
- ③教室で出来るだけ教師が英語を使い、実際の使用場面に応じた慣用表現が反射的に表出できるような状況を多く設定する。また、教師は表情と言葉がつながるように豊かに表現する必要がある。

8 表現の能力

9 表現の能力

(1) 結果の概要

8 9ともに昨年度より無答率が下ったことから、なんとか知っている英文を使いこなそうとする態度が身に付きつつあると考えられる。

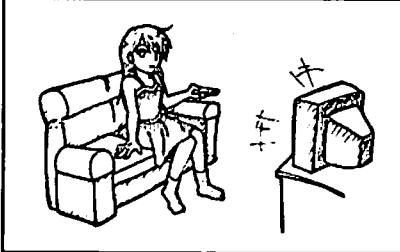
ただし、8 9に関しては、他の問題と比べ正答率が低く無答率が高い状況であり、英語で書く力の補強は依然として大きな課題である。

8については、昨年度よりも無答率が下がったことに加え、正答率が10%以上上がっている。自ら考え英語を書くことについては、取組への意欲が向上し、それに伴い結果も向上している様子が推測される。また、友達紹介という条件設定が生徒にとって書きやすいものであったことも結果の向上につながったと思われる。とは言え、正答率は50%と高いものとは言えず、文法事項についての間違いも多い。

誤答の主な内容は、・3人称単数現在の動詞の変化・be動詞と一般動詞の混在・be動詞の欠落・冠詞の欠落・名詞(单数、複数)の使い方・スペリングミス等であった。

一方、9の正答率は昨年度よりも9%下がり、52%であった。現在進行形で表現することは漠然と理解しているようだが、約半数の生徒は不正確な解答をしており、スペリングを含め正確に文を書く力や、正確な文法の知識の定着が十分でないことが推測される。

誤答の主な内容は、・be動詞の欠落・ingの付け忘れ・現在形での表現・スペリングミス等であった。

9 絵の内容に合う文の作文(表現の能力)		絵を見て、彼女(Lucy)が今していると考えられることを、4語以上使って1文書く。		正答例 Lucy (She) is watching TV. Lucy (She) is sitting on the sofa. 等	65 * (61)	52 (61)	
10 語句の整序問題(文法・語順についての理解)	(1)	与えられた語句を並べかえ正しく文を書く 〔the desk it's under〕		It's under the desk.	85 * (61)	89 (61)	
	(2)	〔you time get up what do〕		What time do you get up?	72 * (87)	44 (87)	
	(3)	〔a has house she Saitama near〕		She has a house near Saitama.	44 * (48)	64 (48)	

※市の正答率の()内の数値は、経年比較が可能な問題の昨年度の正答率

(2) 指導のポイント

- ①スモールステップを踏みながら初めは間違いをおそれず楽しみながら、そして徐々に正確さを追求できるように書いて表現する活動を計画的に取り入れていく必要がある。数多く「書くこと」を経験させたい。最初の段階としては「書くこと」が楽しい、という経験が大切である。その次の段階として、「もっと書きたい、正確に書きたい」という意欲を引き出したい。表現する楽しさをはぐくむ学習活動と、正確さを要求する学習活動の両方をバランスよく設定したい。
- ②授業のみならず、家庭学習や定期テストでの自由英作文の課題設定により、表現力の養成に努めたい。生徒の意欲を喚起するような題材を選びながら生徒の作品を評価し、根気強く添削を続けていくことが大切である。正しい文章表現は正しい語法に裏付けられることから、生徒作品の添削工夫が今後の課題といえる。

10 文法・語順についての理解

(1) 結果の概要

10の正答率は66%となった。並べかえる語が提示されていることもあり、英文を構成しようとする努力は見られ、無答率は89%と比べると低い。

しかし、個々の問題を見ると(1)は89%、(2)は44%、(3)は64%と正答率にはばらつきが見られた。誤答の様子を見ると、主語・動詞の語順やwhatが文頭にくる等の基本的な知識は身に付けていているが、timeやnearの位置等に迷った生徒が多くいたと言える。

特に正答率が低かった(2)では、生徒の中に定着している英語の結びつきがWhat do you ~?の方が強いのか、What time ~?と並べかえることができずに文末にtimeを置く誤答が多く、語順の理解が浅い解答が見られた。

(2) 指導のポイント

- ①普段の授業の中で、教科書の基本文となっている文法事項をまずはしっかりと定着させることが大事である。また、英語独特の言い回しや語順は折に触れて繰り返し理解させることで徐々に定着していくものと思われる。
- ②読み取りのスピード化や自由表現の奨励をしながらも、それらの基本となる文法や英単語学習の重要性を折に触れ生徒に知らせるとともに、ともすると味気なくなりがちなこれらの指導にゲーム的要素を盛り込む等の工夫をし、基本となる文法やボキャブラリー指導の継続が大切である。
- ③文法用語は生徒にとって難しく感じることが多い。できるだけ平易に基本を教え、英語の特徴をつかませながら英語の語順を会得できるよう進めていく工夫が必要である。

終わりに

基本的な事柄は多くの生徒が身に付けていると言える結果であった。今後は生徒達に、知っている知識を駆使し英文を読みとったり自己表現したりする楽しさを、いかに体験させられるかが英語教師の使命といえる。同時に、それらの活動の基本となる正確な語法指導も大切である。

知っている英語から使える英語にするためにはインプットとしての文法、ボキャブラリー指導や読解指導、アウトプットとしての会話や作文指導をバランスよく組み合わせた教科経営が求められる。

基礎学力の定着も、ますます重要な課題となっていると思われる。授業の中でできることと併せて、家庭学習のあり方や定期テストや小テスト等のあり方なども含めた検討が必要であろう。

授業実践や教材等についての情報を得る機会を積極的に活用し、教師自身の自己の授業実践を豊かなものにすることも大切である。また、得た情報の共有化も有効である。

学力を付けコミュニケーション能力を高めるためには、生徒の学ぶ意欲を高めたい。しっかり声を出し、失敗を恐れず、友達が間違えても冷やかさず、励まし合いながら前進する授業をつくりたい。

4まとめ

【調査結果の概要】

<全体>

- 全体的な正答率から考え、おおむね満足できる状況である。英語の概要を聞き取る問題、絵で示された状況や具体物についての説明等の文章の聞き取り・読み取り、身近な話題や状況での場面の理解や慣用表現については、よくできている。
- 文字媒体のみで文章全体の内容を正確に理解すること、細かい条件を注意深く読むことの正答率が低い。自分で考え方表現する（書く）ことについては、無答率が昨年より低くなってきており、書こうとする意欲は向上している様子が見られる。しかし、他の観点に比べて依然として書くことの正答率は低く、語彙・文法について正確な知識が十分でない。

<聞くこと>

- 聞き取りの能力については、おおむね満足できる状況である。特に視覚的に場面が提示された状況や、概要や要点をつかむことについては、よく聞き取れている。
- 英語特有の音の聞き取りについては弱い面がある。また、英語のリズムに乗った音のつながりの中で聞き取らなければならなかった問題で低い正答率となつたものがあった。

<読むこと>

- 示された絵に関する対話の英文を読み取り、条件を絞っていく問題については正答率が高く、よく読み取れていた。ただし条件を細かく読み取り、提示された絵と詳細に照らし合わせなければならない問題は正答率が低かった。
- 読み取った情報全体から書き手の意図を判断したり、内容を正確に読み取る問題は、正答率が低かった。
- 対話の流れから場面の状況を読み取ることでは、身近な場面設定は理解度が高いが、あまり体験がないと思われる場面になると弱い面が出た。

<書くこと>

- 条件に合わせて、自分で考え方英文を書く問題では正答率が低く、まとめた内容の文章を自ら考え方書く力は弱い。昨年より改善されたとはいえ、無答率が高い点も課題である。
- 昨年度 Yes,No で答えられる疑問文の整序問題の正答率は高かったが、今年度、What time do you～? の疑問文は正答率が低かった。多少複雑な形の疑問文となると語順の理解は十分でない。
- 文法的な誤りや綴りについてのミスも見られ、正確に文を書く力には課題がある。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

- 条件や場面に合わせて自分で考え方表現する活動をより一層行っていく。特に書くことに対する意欲を高める指導を工夫し、聞くことや話すこととともに書くことを取り入れた活動を行っていく。表現する楽しさを味わせ意欲を引き出す学習活動と正確さの指導をバランスよくしていくことも大切である。
- 基礎学力の定着も重要である。基本的な語彙、慣用表現や文法等について、「言語の働きや使用場面」を意識し、実際の使用方法や使用場面を理解させるよう工夫し、定着を図る。
- まとめた内容の英文を読み、概要や書き手の意図、対話の流れや場面を正確につかませる読み取りの活動を取り入れていく。